

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

倉敷市

2 地域再生計画の名称

「ひと、輝くまち 倉敷。」再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成 17 年度から開始

4 地域再生計画の意義及び目標

(1) 地域の特性

本市は、岡山県西部の瀬戸内海沿岸に、高梁川を取り囲むように位置しており、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた地域であるとともに、人口約 44 万人を有する瀬戸内海の中核都市として、発展を遂げてきた。

市の中心部にある倉敷川畔には、江戸時代からの伝統を引き継ぐ美しい町並みを今に残す「美観地区」があり、大原美術館や倉敷民芸館など多くの文化施設を有するとともに、市の南部には、瀬戸内海国立公園を代表する観光名所である「鷲羽山」や「王子が岳」の景観地がある。また、ＪＲ倉敷駅の北側には、デンマークの「チボリ公園」の魅力と精神を受け継ぐ、「倉敷チボリ公園」があるなど、本市は数多くの観光資源を抱え、国内外から多くの観光客が訪れている。さらに、市内には良寛和尚のゆかりの地である「円通寺」や「熊野神社」など倉敷の歴史を感じさせる由緒ある寺社も多数有している。

一方、本市には、国内でも有数な規模を誇る「水島臨海工業地帯」を有しており、同地帯には石油精製、石油化学、鉄鋼業などの企業が高度に集積している。また、児島地区の繊維産業や、い製品(豊表等)製造業などの地場産業も有している。

これまで本市が発展を遂げてきた背景には、このような自然、歴史、文化、芸術、産業の貴重な資源の有効活用が欠かせないものであったと考えられる。

(2) 意義及び目標

本市は、子どもからお年寄りまで、みんなが元気でいきいきと暮らせるまち「ひと、輝くまち 倉敷。」を地域再生、今後のまちづくりのコンセプトとし、恵まれた自然環境や先進的、国際的な精神に支えられた歴史、芸術、文化、産業など、貴重な特色ある地域資源を有効に活用する、「経営感覚をもった暮らしき」をまちづくりの理念として、次の３つのビジョンの実現に向けたプロジェクトの展開をめざすものである。

「拠点都市」プロジェクト

観光都市及び産業都市暮らしきの再生

「国際文化都市」プロジェクト

よい子いっぱいのもち倉敷

「福祉文化都市」プロジェクト

ゆとりあるまち倉敷

今回の「ひと、輝くまち 倉敷。」再生計画は、先取的、国際的な精神に支えられた歴史、芸術、文化に重点を置き、地域再生の支援措置を活用して、都市整備や人材育成事業を展開し、「拠点都市」、「国際文化都市」の二つのビジョンの実現を通じた地域再生をめざすものである。

「拠点都市」「国際文化都市」の両プロジェクトは、それぞれのビジョンの実現をめざすものであるが、「歴史、芸術、文化を活かす」という共通のイメージのもとに、ハード面の都市整備と、ソフト面の人材育成事業が絡み合って、本市が「ひと、輝くまち 倉敷。」として再生するための事業展開を進めていく。

イ.「拠点都市」プロジェクト

本市は、平成１５年１１月に、「暮らしき広告景観特区」の認定を受け、景観を大切にする、「美観都市」にふさわしいまちづくりを進めている。

代表的な「美観地区」や「倉敷チボリ公園」など、「景観」を大切にしたい、多くの質の高い観光資源を有するが、近年は観光客の減少に歯止めが掛かっていない。

今回のプロジェクトは、これまで取り組んできた「美観都市」に加え「国際文化都市」の実現をめざし、倉敷駅周辺の都市整備や中心市街地の活性化などを図るため、倉敷駅周辺の面積約400haの範囲を「都市再生整備計画」地区と定め、鉄道により分断されている、南北市街地の交通、土地利用の一体的整備や、既存商店街、美観地区という全国的に知名度の高い駅南地区の整備を進める。

具体的には、次の目標を掲げ、地域再生の支援措置を活用しプロジェクトを進めていく。

目標1 人にやさしい施設の整備により、中心市街地の活性化を目指す。

目標2 景観に配慮した観光資産の再構築により、市民と観光客の魅力度を高める。

目標3 市民、行政お互いが役割分担し、協働のまちづくりを目指す。

ロ．「国際文化都市」プロジェクト

「ひと、輝くまち 倉敷。」の実現のため、「拠点都市」、「国際文化都市」、「福祉文化都市」の3つの構想のうち「国際文化都市」について、幼小中が連携した英語教育を実践することにより市民全体の英語力の向上、国際理解の深化、母国日本や郷土倉敷の文化や芸術への理解や継承が期待できるとともに、英語を用いた国内外における文化交流や経済交流が新たに生まれ経済活動の活性化が期待できるようにする。

これまで小学校に英語指導助手を各学級月1，2回程度派遣し、総合的な学習の時間に英語活動を行ってきた。このことにより、児童の外国や英語への興味・関心が高まり、また、保護者の英語教育への関心も高まりを見せている。中学校においては、基礎学力の定着を図るため、英語科の学習指導について平成14年度から少人数指導が導入されている。このような取り組みの中で、児童生徒にとって英語がより身近なものとなり、外国人とコミュニケーションを図れるようになりたいという意欲が一層高まってきている。

そこで、倉敷市の英語教育の目標を次のとおりとし、今後さらに英語教育を推進

することにした。

国際感覚を身に付けて、国際人として将来、倉敷市に貢献する人材の育成

実践的コミュニケーション能力の育成

中学校卒業時に、日常の英会話ができる程度の語学力の育成

幼小中が連携して英語教育の推進を図り、中学校卒業時に生徒が英語検定３級程度の取得を目指す。このような取組により、倉敷市において今後ますます進展する国際化に的確に対応でき、国際社会の一員として社会貢献できる人材の育成に努める。さらに、児童生徒ばかりではなく、保護者や地域社会が国際理解や英会話への関心を高め、市民全体の国際交流が推進されることを目指す。また、時代に即した英語教育を通して、都市としての新たな魅力の創出や都市の活性化など、「ひと、輝くまち 倉敷。」の実現に向けた各種施策に広く波及させることも目標にしている。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

イ．「拠点都市」プロジェクトによる効果

倉敷駅周辺の都市整備や中心市街地活性化の実施により、ハード面では、南北市街地の融合・一体化が行われ、都市機能の強化が図られるとともに、景観に配慮した都市整備も行われ、ソフト面では、市民と行政が、協働したまちづくりが推進される。ハード面及びソフト面の整備による定量的な効果の目標は次のとおりである。

指標	単位	項目	従前値	基準 年度	目標値	目標 年度
商店街来街 者数	人 / 8 時間	中心市街地の商店街への 来街者数	78,303 人	16	80,000 人	21
景観が美し いと思う人 の割合	%	景観に対する観光客の満 足度		16		21
観光客数	人 / 年	美観地区に訪れる観光客 数	307 万人	16	322 万人	21
市民活動参 加者数	人 / 年	地区内での市民活動者数	1,037 人	16	3,000 人	21

ロ.「国際文化都市」プロジェクトによる効果

倉敷市英語教育の推進を通して、市民間での外国人との積極的な交流が可能となり、市民全体の国際理解が深まることが期待できる。また、英語によるコミュニケーションを通して、異なる文化をもつ外国人とお互いの文化や習慣について伝え合い相互理解を深めることで、お互いの存在を尊重し合うことができ、外国人を広く受け入れる環境が整備される。このことから、外国人にとっても訪れやすく住みやすい、また働きやすい町づくりの推進も期待できる。

国際社会に貢献する人材が育成されることにより、倉敷市での国際交流事業の拡大や倉敷市の自然、歴史、芸術、文化と連動した国際会議の開催、さらには国際交流を活用した産業の振興など、社会的経済的な活性化も期待できる。

市民学習センターや公民館主催による社会人対象の英会話教室においては、既に本市雇用の英語指導助手が活用されている。小中学校における英語教育の充実により、保護者及び地域の社会人の興味・関心が一層高まることで、今後、民間企業との連携や NPO の人材活用など経済活動の活性化が図られることが期待できる。

幼稚園や小学校に、地域に在住している外国人や外国に長年在住し帰国した地域の人等を招くことにより、学校と地域社会の交流がさらに深まり、学校における他の教科・領域への地域の人材活用が波及し教育効果が高まることが期待できる。このような人的交流の増大により、地域産業にも地域の人材や外国人の雇用が増え地域経済の活性化も見込まれる。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

208001 地域づくり支援室などアドバイザー機能の強化

212028 まちづくり交付金の創設

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

(1) 「くらしき広告景観特区」(平成15年11月28日 認定)

規制の特例措置

「屋外広告物条例に違反した屋外広告物の除却による美観風致維持事業」

(番号1209)

特定事業の内容

当該特例措置の活用により、現行法の簡易除却措置では対応できない違反広告物にも対応が可能となり、安全で良好な町並み景観の維持及び、文化と観光都市にふさわしいまちづくりの推進を目指す。また、関連事業との相乗効果による地域振興や観光振興に資する。

(2) JR山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業

事業概要

本市の中心市街地である倉敷駅周辺地区は、鉄道によって南北の交通や土地利用が分断されており、一体的な発展を阻害している。

このため、倉敷駅付近の鉄道を高架化することで、南北市街地の一体的な整備を行い、土地利用の促進と都市機能の集積を図り、44万都市の「顔」づくりを行うものである。

事業区間は、倉敷駅周辺のJR山陽本線、伯備線、水島臨海鉄道の約7.1kmである。

(3) 倉敷駅周辺第二土地区画整理事業

事業概要

本地区は、倉敷駅に隣接しているにもかかわらず、公共施設等が未整備のまま無秩序に住宅地が形成されている。

このため、倉敷地区都市拠点総合整備計画に基づき、公共施設の整備改善と都市的土地利用への転換を図ることにより、中心市街地としてふさわしいまちづくりを土地区画整理事業により推進するものである。

区域は、山陽本線北側、伯備線東側、チボリ公園西側の 22.5ha である。

(4) 「国際文化都市倉敷」英語教育推進特区

(平成16年10月 第6次認定申請に申請予定)

規制の特例措置

「構造改革特別区域研究開発学校設置事業」(番号802)

特定事業の内容

当該特例措置を活用することにより、小学校に対しては英語科の創設をモデル的に行い、中学校に対しては、英語科の授業を増やすことで、実践的コミュニケーション能力の向上を目指し、国際人として次代を担う人材の育成を図る。

(5) 倉敷市長杯英語スピーチコンテスト

事業概要

本市の中学校英語教育の充実を図るため、倉敷市長杯英語スピーチコンテストを新設する。英語教育で身につけた英語表現力を発揮し、身近な事柄や郷土倉敷などについて自分の考えを英語で多くのひとに話す機会を用意するとともに、成績優秀者を顕彰することで、英語学習の動機付けとする。

(6) 英語教育関連事業の充実

本市では、様々な国際交流事業を実施しているが、なかでも英語教育関連事業としては、倉敷イングリッシュキャンプ事業や姉妹都市との学生親善使節事業などがある。各事業に毎年多くの中高校生が参加をしており、英語を用いて実際に外国人とコミュニケーションを図る場として、大きな成果をあげており、今後、事業規模の拡大もしくは同様の事業の新設を視野に入れて、これらの事業を継続し、国際理解の浸透と英語教育の充実を図る。

- 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
なし

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

208001 地域づくり支援室などアドバイザー機能の強化

2 当該支援措置を受けようとする者

倉敷市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

(1) 取組に関与する主体

倉敷市

(2) 取組が行われる場所

倉敷市全域

(3) 取組の実施期間

平成16年度中に開始

(4) 事業内容

本市では、市内の幼稚園の園児や小学校低学年の児童を対象に、地域に在住している外国人や外国に長年住み帰国した地域の人を招き、英語によるふれあい活動を行う、「くらしきグローバルフレンドシップ事業」を今年度中に実施する予定である。幼少時より英語の音声や外国の文化にふれることで、国際理解の基礎が培われることが期待されるが、「地域づくり支援アドバイザー」を活用することで、本事業をより一層推進していく。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者

倉敷市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

(1) 取組に関与する主体

倉敷市

(2) 取組が行われる場所

倉敷駅周辺地区（面積 3 8 4 h a ）

(3) 取組の実施期間

平成 1 7 年度から平成 2 1 年度

(4) 事業内容

本市は、江戸時代からの町並みを今に残す「倉敷美観地区」やデンマークの「チボリ公園」の魅力と精神を受け継ぐ「倉敷チボリ公園」など、質の高い観光資源を抱え、多くの観光客が訪れているが、近年は観光客の減少に歯止めがかかっていない。倉敷駅周辺地区は本市の玄関口として、既存商店街と美観地区のある駅南地区を中心に発展してきたが、東西方向に鉄道が運行されているため、南北市街地の交通、土地利用の分断が顕著となっている。駅南地区では、美観地区があるものの、人口の高齢化や空洞化による中心市街地の活力低下が著しく、商業等の機能更新が求められている。また、駅北地区では、倉敷チボリ公園の開園等により、新たなまちが形成されつつあるが、駅南へのアクセス性の向上を図ることが求められている。このような状況を解消するために、まちづくり交付金の新規要望を行う予定である。まちづくり交付金を活用することにより、駅南地区での市街地再整備や駅北地区での面整備を進めることで倉敷駅周辺を活力、魅力あふれる中心市街地に再生し、南北市街地の融合、一体化による都市機能の強化を

図るとともに、ＪＲ倉敷駅付近の鉄道高架事業の推進により、交通、土地利用上の分断を解消し、倉敷チボリ公園から美観地区までの回遊性を高めることを計画している。

また、伝統的建造物と調和した景観整備を行うとともに、市民と行政が協働して、まちづくりを推進する。